第 89 号
会報
NSN
NERIMA SENIOR NETWORK
2020年
10 月号
ねりまシニアネットワーク 会報／NSN 第 89 号 2020 年 9 月 10 日発行 発行責任者／武藤 哲

「NSNの歩み」の編纂について

昨年の春より取り掛かった「ねりまシニアネットワーク」の創立から現在に至る迄の記録をまとめるという作業を始めて、はや一年が経とうとしています。5月頃には発行できると思っていたところ、昨今のコロナ禍の影響で総会が延び延びになり、最終まとめが出来ないまま今日に至っています。今年度の総会が終わり次第、即刻まとめようと思っていますが、何時の事やら気をもんでいるところです。

この記録の題名は「ねりまシニアネットワーク（NSN）の歩み」としていますが、設立当初の記録があまり残っておらず、詳細について記せないのが残念です。内容は、設立と経緯・組織・各事業等の説明と記録（写真を含む）について述べています。また、それらの資料については別冊として残しておき、要望に応じて閲覧してもらうことにしたいと思います。

体裁はA4（縦）40頁程度です。

配布は各会に1冊ずつの見込みで、希望者があれば個別に実費でお分けしようと思います。

「NSNの歩み」編纂担当　五十嵐將夫

作業部会紹介シリーズ ②

WHCクラブ

NSNの主要活動として毎回の連絡会で報告を行うWHCクラブが、他の活動部会と同様の分かり易い名称となっていないのを、不思議に感じる方もいらっしゃると思います。

従来は「睦会」が同期会活動の一つとして継続的に行ってきた、多分野の講師を招聘して行う講演会に相乗りさせてもらう形で、いわば形式上のNSN講演会が存在しました。

これを改め、NSNの正式な活動として講演会等の開催を行うべく検討した結果、区報への広告掲載・教育委員会からの活動補助金等を無理なく利用するためには、NSNとは形式的に別組織とする必要があると判断されたため、有志で「WHCクラブ」なる会を設立しました。

「W」、「H」、「C」は福祉、健康、文化を意味し、各方面の専門家による講演、イベントを定期的に開催することを目的としています。

設立当初は各年数回を目指していましたが、3年目からは秋の講演会・春のクラッシックコンサートの二本立てが定着しました。どの活動も同じですが、極めて少ない謝礼で出演に応じて下さる講師・出演者を探すことが最大の難題です。

講演会に関しては時代のニーズに合った内容の講話を求めて、知人・友人のネットワークに限らず、面識のない先生に直接依頼することも行っています。良い講師を招聘する機会を増やすためにも、NSN会員の皆様からの推薦を歓迎します。

コンサートに関しては、3年間同じメンバーで公演が実現し、固定的なファンも出来てきていることから、しばらくは同一の出演者で行う考えです。

WHCクラブ　岡部史生

【会員のひろば】

《いちご会「麻布七福神巡り」》

現在、世界は新型コロナウイルス感染防止の対応に厳しい中、8か月前の七福神巡りの何と平和であったことでしょうか。今の危機感・閉塞感を暫し和らげるため、楽しい思い出を。

令和2年1月12日いちご会員13名、赤羽橋駅に10時集合。曇天の中、朱も鮮やかな東京タワー右に臨み足も軽やかに出発。まず弁財天・恵比寿の神社へ。近年急速に開発の進んだ巨大なビルの立ち並ぶ街並みには今更ながら驚かされます。古名の残る狸穴坂を左に、都心環状線沿いの布袋尊を経て六本木駅へ。休憩がてらに大戸屋で、少し早めの昼食では楽しい会話が弾みました。

午後はまず福禄寿・寿老人を目指します。右手に森ビルの大規模工事現場。この東京にまだこれほどの土地を確保して開発できる、経済界の窺い知れぬ底力に恐れさえ感じる風景でありました。さくら坂・暗闇坂・大国坂など郷愁を覚える横丁を辿り、毘沙門天・大黒天、最後に十番稲荷神社の宝船にお参りして無事七福神巡りを終えました。歩数は約1万9千歩。10時より2時までの4時間、60歳代より80歳代のいちご会の仲間、健脚且つ健啖家の会員には、心地よい疲労感と共に幸先良い新年の行事となりました。

また私たちの住む練馬の自然は何物にも代えがたい宝物と、確認の日でもありました。

いちご会　富田雅子

《NSNの母体としての　ねりまシニアクラブ》

NSNは平成8年に故山本雄一氏を初代会長として発足しました。これより先平成4年に山本氏が区報で呼びかけてねりまシニアクラブが発足しました。創立の目的は会員相互の親睦と社会貢献活動、の2本柱でした。

ご承知のように、東京のような大都会では、多くのサラリーマンは現役の時は社業に専念し、地域とのかかわりを全く持っておりません。したがって退職したとたんに居場所を失い途方に暮れるということになります。山本氏の呼びかけの狙いはそういう退職後の身の処し方に迷っている中高年の方々を結集して、知恵を出し合って、余生の生活設計をしよう、ということであったのです。

初めは十数名でしたが、順調に発展し最盛時には40名に達しました。活動の内容は、歩こう会（都内や埼玉県の名勝公園などの散策）、生涯学習（各界の講師を招いて講演）、老人給食の配達、障害者作業所でのボランティア、などが主なものでした。このようなねりまシニアクラブの実績を裏付けにして、翌平成5年に第1回ねりまシニアセミナーが開催され、同期会として玄暉会が結成されました。

平静7年の第2回の同期会は玄暉会に合流し、平成8年には燦々会が結成されました。この年NSNが発足しました。その後、毎年新しい同期会が誕生し、最近のNSNのサマーフェスティバルで200名もの大盛況となったことは、ご同慶の至りであります。

ねりまシニアクラブ　綿貫久和

【編集後記】

NSNが　まだ十分に活動していないので、今号は半分の二面構成になりました。早く本格稼働することを願っています。　　O山